

北海道大学

【NO 1 北海道大学】

	北海道大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	農学部（第1年次:215） 大学院農学院（M:150 D:50） 獣医学部（第1年次:40） 大学院獣医学研究科（D:24） 水産学部（第1年次:215） 大学院水産科学院（M:90 D:35） 人獣共通感染症リサーチセンター
沿革	明治5（1872）年 開拓使仮学校創立 明治8（1875）年 開拓使仮学校を札幌学校に改称 明治9（1876）年 札幌学校を札幌農学校に改称 明治40（1907）年 水産学科設置 昭和24（1947）年 新制北海道大学農学部設置 昭和24（1949）年 農学部獣医学科設置 昭和24（1949）年 函館水産専門学校を北海道大学に包括し、農学部水産学 科と合わせて水産学部設置 昭和27（1952）年 農学部獣医学科を獣医学部に昇格 昭和28（1953）年 大学院農学研究科設置 昭和28（1953）年 大学院獣医学研究科設置 昭和28（1953）年 大学院水産学研究科設置 平成12（2000）年 大学院水産学研究科から大学院水産科学研究科に名称 変更 平成17（2005）年 大学院水産科学研究科を廃止し、大学院水産科学院を設 置 平成17（2005）年 人獣共通感染症リサーチセンター設置 平成18（2006）年 大学院農学研究科を改組し、大学院農学院を設置 平成22（2010）年 人獣共通感染症リサーチセンターが共同利用・共同研 究拠点に認定
設置目的等	北海道大学農学部・大学院農学院・大学院農学研究院、獣医学部・ 大学院獣医学研究科、水産学部・大学院水産科学院・大学院水産科学 研究院の母体である札幌農学校は、北海道開拓に有用な専門技術者の 養成を目的として明治9年に設置された。その後、東北帝国大学農科 大学、北海道帝国大学農科大学を経て、新制国立大学の発足時には、北 海道大学農学部として承継された。

	<p>昭和24年に、本邦における最高水産教育機関として水産に関して高度の学理的研究をなし、世界における本邦水産界の地位を高め、同時に学識並びに技術において業界のための指導的人物を養成することを目的に水産学部が設置された。</p> <p>昭和27年に、動物の健康の保持増進、公衆衛生の向上、食の安全及び生命科学の発展に寄与するため、獣医学に関する専門的な知識及び技術を教授することにより、豊かな人間性、高い生命倫理観及び国際的視野を備えた獣医師及び獣医学に関する創造性を有する研究者を養成することを目的に獣医学部が設置された。</p> <p>昭和28年に、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的に大学院農学研究科及び大学院獣医学研究科並びに大学院水産学研究科が設置された。</p> <p>平成17年に、水圏における生物資源の持続的生産及び効率的利用並びに水圏生態系の保全に関して基礎的及び応用的な教育研究を行うことにより、水産科学に関する高度の研究能力及び広い視野を有する創造的かつ意欲的な人材の育成を図ることを目的に大学院水産科学院が設置された。</p> <p>また、水産海洋資源の持続的生産に基づく食糧の保障による人類の生存と繁栄に係る課題解決のため、水圏環境における法則性の解明と海洋生命の機能解明の研究を行うことを目的に大学院水産科学研究院が設置された。</p> <p>平成17年に、人獣共通感染症の克服に向けた教育・研究を推進することを目的に人獣共通感染症リサーチセンターが設置された。</p> <p>平成18年に、先端的、学際的又は総合的な文理融合型の教育研究の実施を通じて、農学に関する基礎的又は専門的な素養を有し、かつ、食糧の需給及び安定供給、食の安全、地球環境保全、バイオマスの利活用等の人類共通の課題に対応することができる多様な知識及び判断力を有する人材の育成を図ることを目的に大学院農学院が設置された。</p> <p>また、新たな農学体系の構築のため、食糧・環境に関する研究、食品の安全性の確保に関する研究、バイオマスの有効な利用の確保に関する研究、生物共生の機構の解明による食品の生産技術の開発に関する研究、その他の人類の生存基盤に関する研究を行うことを目的に大学院農学研究院が設置された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>北海道大学は、「高度な専門性と高い倫理観をもって社会に貢献しうる指導的・中核的な人材の育成」、「世界水準の研究の重点的推進」、「世界水準の先端的・融合的研究と教育に基づいた産学連携の推進」などを掲げて教育研究に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p>

- 「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」、「実学の重視」の四つの基本理念のもと、恵まれた自然環境と、農学領域の教育研究リソースを活用し、さらに、大学間連携や専門性・実践性の高いカリキュラムにより、国際的に活躍できる専門的職業人を育成する役割を充実するとともに、俯瞰力と独創性を備え、世界レベルの教育研究及び技術開発を先導する優れた能力を有する人材を育成する役割を果たす。
- 先導的な大学院教育改革プログラムや実践的海外活動及び留学生受け入れを伴う国際交流プログラムなどの実績を生かし、農学領域において、よりグローバルにリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指して、国際性と実践性を重視した大学院教育の充実を図る。
- 生物生産の基盤となる基礎生物学、持続的生産管理システム、食品の生体調節機能、多様な環境における生態系機能やその保全などに関する世界トップクラスの高い研究実績を生かし、食料の持続的生産やそれを保障する農水産業環境の実現、食によるヘルスイノベーションを通じた健康増進の実現に寄与する。
- 人獣共通感染症及び動物感染症の病原因子の存続・伝播様式の解明ならびに診断・予防・治療法の開発に関する地球規模での研究など、国内外の研究機関との活発な共同研究を推進するとともに、獣医科学及び獣医療の高度化に資する研究・技術開発を通して、ヒトと動物の健康及び社会経済を脅かす疾病を克服して、安心・安全な生活環境の維持に寄与する。
- 農林・水産・食品産業の振興に資する生産・流通・利用技術の開発支援などの地域振興に加え、アフリカ・アジアにおける専門性の高い大学院教育・研究拠点として社会人教育も含めた国際人材養成と国際技術協力を推進し、持続的農林水産資源の生産、ヘルスイノベーション、人獣共通感染症の克服に寄与する。
- 食の安全・安心再教育プログラムや大学院への社会人受け入れ、新興国・途上国の獣医衛生、公衆衛生に携わる実務担当者及び研究者のリカレント教育などの実績を生かし、社会人学び直しを推進して、農林・水産・食品産業の発展と新興国・途上国の衛生環境の向上に資する人材の育成に寄与する。

- | | |
|--|--|
| | <p>○ 練習船や農場、研究林などの多様なフィールドを全学及び他大学の共同利用等に活用し、農林水産資源とそれを取り巻く環境のモニタリングや保全に関する教育研究の推進に寄与するとともに、フィールド型演習を通じて、実学を重視した全人教育を行う。</p> |
|--|--|